

# 露西亜月報

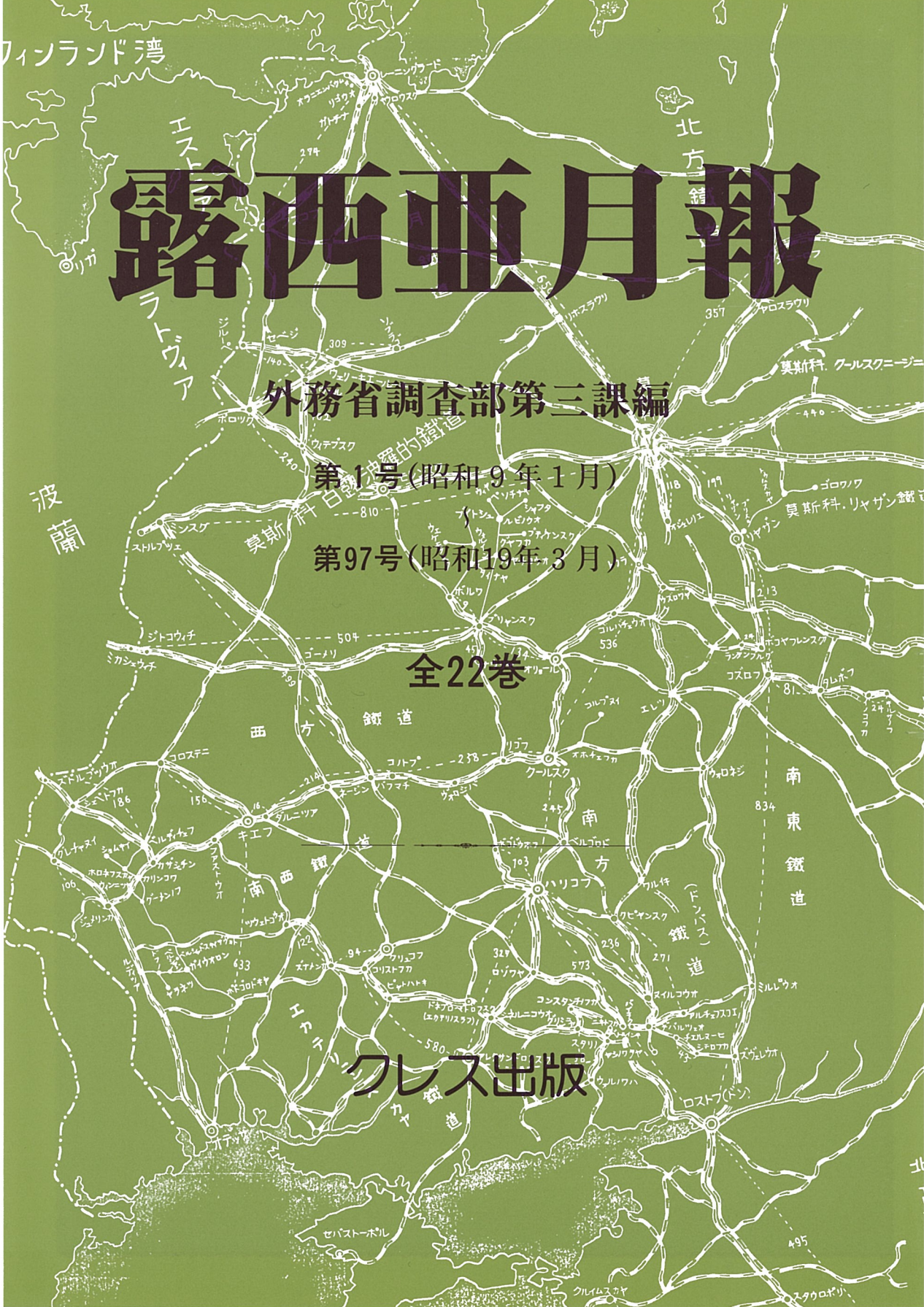
外務省調査部第三課編

第1号(昭和9年1月)

第97号(昭和19年3月)

全22巻

クレス出版



# 『露西亞月報』刊行にあたって

吉村道男

近代日本の対外関係史を把握するのに不可欠な根本史料は、現在外務省外交史料館に保存整理され、一般に公開されひろく利用されている。その所蔵記録は、明治大正期のいわゆる「旧記録」が約二万二〇〇〇冊、昭和戦前期の「新記録」は約二万六〇〇〇冊に達し、単純にみると昭和期記録の方が数も多く、この間の外交交渉の推移を辿るのに困難はないように考えられる。ところが一九四五年太平洋戦争終結の際に非常焼却処分が付された六六九八冊の記録は、満州事変、日中戦争、太平洋戦争関係の極秘扱いとされた最重要記録を含んでおり、昭和期の日本の運命を左右するに至った多くの事件、外交案件を究明する根本史料が欠如している現状である。もとより明治大正期の重要史料も多く失われているが、米・英・中国と並んで重要な存在であったソ連邦との国交に関する史料は、絶望的といってもよい程数が少ない。これは当時の日ソ間の特殊な状況から微妙な材料があったためと考えられるが、昭和期の日ソ交渉は重要な問題が山積していただけに、この史料欠如による空白は痛手である。その欠を埋めるためには、次善の策として外務省の編纂にかかる各種の調査の活用が望まれる。ここに復刻刊行される『露西亞月報』はこの課題に応じられる性質のものである。

『露西亞月報』は、それまでの個別的な調査とは違い、満州事変後とくにその動向に注視せざるをえなかったソ連邦の全貌を多角的に

とらえようとしたものであり、外務省調査部第三課主管の下に昭和九年一月第一号が出された。その体裁は従来の内部資料と同様な謄写刷りであり、初めから機密扱いではなかった。調査部三課では、毎月ソ連邦に関する調査の幾つかをまとめ、これにソ連邦における重要時事問題および法令集要覧を加え、本省と在外公館の執務並びに日満における調査機関の調査上の参考に資するとともに、ソ連事情啓発のため、図書館や特定の個人にも配付し、その配布を希望する者は増加しつつあった。日中戦争直前の昭和十二年五・六月の四十一号からは、従来の謄写刷りから活版印刷となり、爾来昭和十九年の終刊にまで至っている。制約はあったにせよ公表されていたものが取扱注意となったのは、昭和十四年平沼内閣の時である。この資料集が新聞雑誌に引用されることも多く、依拠した材料がソ連のものであるだけに結果的にソ連の宣伝になるおそれがあるというのがその理由であった。

外交の基礎となる各国の実情調査がどのようになされ、どの程度現実に生かされたかを探るのは重要な課題であるが、第二次大戦勃発後のドイツ・ソ連の戦闘状況の把握をはじめ、昭和戦前期の日本の対ソ認識の生成過程を知る上でも、この『露西亞月報』はきわめて貴重な資料集であるといってもよいであろう。

(静岡県立大学教授)

## 露西亞月報 全22巻構成 揃定価五一五、〇〇〇円(税込)

- 第1巻 第1号～第6号(昭和9年1月～昭和9年6月)
- 第2巻 第7号～第12号(昭和9年7月～昭和9年12月)
- 第3巻 第13号～第18号(昭和10年1月～昭和10年6月)
- 第4巻 第19号～第24号(昭和10年7月～昭和10年12月)
- 第5巻 第25号～第30号(昭和11年1月～昭和11年6月)
- 第6巻 第31号～第36号(昭和11年7月～昭和11年12月)
- 第7巻 第37号～第41号(昭和12年1月～昭和12年6月)
- 第8巻 第42号～第47号(昭和12年7月～昭和12年12月)
- 第9巻 第48号～第53号(昭和13年1月～昭和13年6月)
- 第10巻 第54号～第59号(昭和13年7月～昭和13年12月)
- 第11巻 第60号～第65号(昭和14年1月～昭和14年6月)
- 第12巻 第66号～第71号(昭和14年7月～昭和14年12月)

■第一回配本 第1巻～第6巻 平成7年3月刊  
揃定価一一九、四八〇円(本体一一六、〇〇〇円)  
■第二回配本 第7巻～第12巻 平成7年7月刊  
揃定価一五七、五九〇円(本体一五三、〇〇〇円)

- 第13巻 第72号～第75号(昭和15年1月～昭和15年4月)
- 第14巻 第76号～第79号(昭和15年5月～昭和15年8月)
- 第15巻 第80号～第83号(昭和15年9月～昭和15年12月)
- 第16巻 第84号～第87号(昭和16年1月～昭和16年6月)
- 第17巻 第88号 (昭和16年7月～昭和16年9月)
- 第18巻 第89号～第90号(昭和16年10月～昭和17年6月)
- 第19巻 第91号～第92号(昭和17年7月～昭和17年12月)
- 第20巻 第93号～第94号(昭和18年1月～昭和18年6月)
- 第21巻 第95号～第96号(昭和18年7月～昭和18年12月)
- 第22巻 第97号 (昭和19年1月～昭和19年3月)

別冊 解説(吉村道男著)・本文総目次

■第三回配本 第13巻～第17巻 平成7年12月刊  
揃定価一三九、〇五〇円(本体一三三、〇〇〇円)  
■第四回配本 第18巻～第22巻 別冊 平成8年3月刊  
揃定価九八、八八〇円(本体九六、〇〇〇円)

# スターリン聲明について

- 一、前 言
  - 二、聲明要旨
  - 三、聲明發表の理由
  - 四、聲明の政治目的
  - 五、結 語
- 附録 スターリン・イワノフ往復書翰譯文

二月十四日附蘇聯邦共產黨機關紙ブラウダ紙上に公表せられたスターリン聲明は世界に多大の反響を與へ、各國の新聞は「スターリンが聯盟に於ける蘇聯邦の地位及び人民戦線の勢力を過信した結果である」、「スターリンは蘇聯邦の眞目的を暴露した」、「スターリンは世界革命の爲め他國に干渉することを公然と認めた」として蘇聯邦は此の聲明を契機として一國社會主義から世界革命主義に轉換し今後世界赤化に積極的に乗出すのではないかとの説が有力に論議せられてゐる。

斯様な反響はスターリンとしても當然豫知してゐたことであらうが、では何故に現下の様な殆ど最悪とも云ふべき國際情勢にも拘らず、かうした蘇聯邦黨策の大轉換を暗示する様な重大聲明を發表するに至つたのであらう

## ■内容見本 第15巻 第80号 昭和15年9月

### 日米關係とソ聯の態度

- 一 緒 言
- 二 ソ聯國際政治論壇の太平洋時局論
- 三 コミンテルンに現れたソ聯の對戰策
- 四 南洋諸國共產黨の動向
- 五 日米關係に對する政策の根柢
- 六 結 語

最近數箇月以來ソ聯の言論報道機關は、黨のそれと言はず、政府のそれと言はず、軍のそれと言はず、西部に對しては獨逸の總力戦振りとその戦績に多大の注意を傾け、それより逸早く學ぶべきを擧げ取りせんとし、周到なる研究を展開し、東部に對しては、支那事變に對する關心を稍々後面に置いて寧ろ皇國の南進動勢及び太平洋情勢を前面に押し出して八方からこれを検討しその歸趨を突留めやうと多大の力を致してゐる。

何故にソ聯は南洋問題、太平洋問題、日米關係に爾く深甚な注意を拂はなければならぬか。見よソ聯は合成ゴム工業の確立に於て獨逸と並んで英國の天然ゴム獨占を突破してはなないか、見よソ聯は錫採取業に於て中亞その他に自國のアウトルキーを樹立しやうとしてゐるではないか、見よソ聯は石油業に於て米國に亞ぐ地位を占めてゐるではないか。然るにソ聯

## ■内容見本 第15巻 第81号 昭和15年10月

### 三國條約とソ聯邦

- 一 三國條約の對ソ關係に關する外紙論調
  - 二 三國條約に對するソ聯邦の反響
  - 三 三國條約のソ聯邦に及ぼす影響
  - 四 ソ聯邦將來の動向
- (附) 三國條約に關するブラウダ紙論議

#### 一 三國條約の對ソ關係に關する外紙論調

九月二十七日締結せられた日獨伊三國條約は、第五條に於て明かにソヴェト聯邦との關係を規定してゐる。右第五條には日本國、獨逸國及び伊太利は本條約の諸條項、即ち歐洲及び大東亞に於ける新秩序建設に關する指導的地位の日本及び獨逸間に於ける相互的承認、右方針に基く努力に對する協力並びに歐洲戦争又は日支紛争に參入して居ない一國による攻撃に對する三國間の相互援助の取極は、「三締約國の各とソヴェト聯邦との間に現存する政治的狀態に何等の影響をも及ぼさざるものなることを確認す」と明言せられてゐる。尙ほ條約前文には、三國政府は新秩序の建設及び維持の根本義に據る努力につき「世界到る所に於て同様の努力を爲さんとする諸國に對し協力を吝まざるもの」なることが掲げられて居り、これはソ

#### 主 要 目 次 (昭和12年9月)

- 第二次五ヶ年計畫の遂行狀態
  - ソ聯邦工業品の質―第二次五ヶ年計畫の政治的・經濟的目標―第二次五ヶ年計畫の實績―ソ聯邦經濟の世界的地位―階級構成の變動―工業化の程度
- ソ聯輕工業の現状
  - 一九三六年度に於ける實績―一九三七年度生産計畫―一九三七年度上半期の實績
- 支那共產黨最近の動向
  - 三つの基本的問題―抗日戦線の統一と階級闘争の相互關係―工場内の活動方針―赤色地域の教育活動

#### ソ聯邦重要事項誌 ソ聯邦法令集第一類要覽

#### 主 要 目 次 (昭和14年6月)

- モロトフの外交演説とその意義
- ウクライナ問題と獨ソ接近説
- 米ソ關係概説(一)
- 第三次五年計畫竝に  
本年度計畫より見たるソ聯農業(一)
- 西藏の政治組織に就て

#### ソ聯邦重要事項誌

#### ソ聯邦政府發行法令集要覽

#### 主 要 目 次 (昭和14年7月)

#### 一九三九年度ソ聯邦國家豫算の檢討

#### 米ソ關係概説

#### ソ聯邦外國貿易の特徴と食料品の輸出

#### 蒙古古典教育の意義とその資料について

#### ソ聯邦重要事項誌

#### ソ聯邦政府發行法令集要覽

#### 主 要 目 次 (昭和15年6月)

- 十九世紀に於ける露西亞のバルカン進出
- 最近に於ける米ソ關係
- ディミトロフのメイデー論文について
- 支那共產運動の發生とソ聯邦の活動
- ソ聯邦最近の文化事情
- バルト三國事情(上)
- メイデーと帝國主義戦争反對の闘争
- タチク共和国に於ける將來の農業
- 特に埃及種棉花の發展方策に關する法令
- 獨誌のソヴェト經濟論評
- ソ聯邦重要事項誌
- ソ聯邦外交日誌
- ソ聯邦政府決定及命令集要覽

# 外務省執務報告

全12巻 臼井勝美・濱口學・原口邦紘解説  
 外務省の各局部が年度毎に行なった執務を、網羅的かつ具体的に把握できる資料。太平洋戦争に至る日本外交の全貌を明らかにする。

東亜局 全6巻 A5判/総五、〇六二頁/揃価一三九、〇五〇円  
 欧亜局 全3巻 A5判/総二、五八六頁/揃価七二、一〇〇円  
 暹米利加局 全3巻 A5判/総二、〇三四頁/揃五六、六五〇円  
 第二期全9巻 本宮一男・臼井勝美解説  
 通商局 全4巻 A5判/総四、〇〇〇頁/揃価一〇九、一八〇円  
 條約局 全2巻/情報部 全1巻  
 調査部 全1巻/文化事業部 全1巻  
 A5判/総四、三〇〇頁/揃定価一一七、四二〇円

# 外務省公表集

全12巻 佐藤元英監修・解題  
 外務省から文書によって発表された主として声明、談話、通告、説明、交換公文などの外交関係記事を蒐集し、記録に留めるために編纂されて、公刊されたもの。大正八年から昭和十八年までの二輯と「満州事変及上海事件公表集」支那事変関係公表集」も含む。

A5判/総七、三〇〇頁/揃定価一八七、四六〇円

# 日清講和関係調書集

全13巻 明治期外交資料研究会編  
 明治期外務省調書集成第一回 日本外交史研究のための根本資料である『日本外交文書』の欠落部分を補完するのみならず、日本外交のより生き生きとした歴史事実を解明。日韓交渉客史、「日清韓交渉事件記事」日清講和始末、「露独仏三国干渉要概」、「蹇々録」他。

A5判/総八、〇二二頁/揃定価一九八、七九〇円

# 日本外交史料集

全3巻 外務省調査部編纂  
 徳川幕府の時代より、華府会議に至る日英、日米の関係を、膨大な外交文書を基礎に、外務省調査部が執務用として、昭和十二年、十四年に編纂し、部内に限って配付した貴重かつ信頼の高い史料集。

日英外交史 全2巻 A5判/総一、五二〇頁 揃価三六、〇五〇円  
 日米外交史 全1巻 品切 A5判/四四二頁 定価一〇、三〇〇円

# 朝鮮総督府施政年報

全30巻 (明治39年(昭和16年版) 朝鮮総督府編 広瀬順晴解題  
 明治三十九年韓国統監府が設置されて以来、明治四三年の日韓併合を経て昭和一六年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書である。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅している、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。

A5判/総約一六、一〇〇頁/揃定価三九一、四〇〇円

# 南洋叢書

全5巻 満鉄東亜経済調査局編 原田勝正解題  
 第一次大戦後、とくに一九三〇年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集である。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究者の方にご利用いただける資料。

A5判/総三、一〇〇頁/揃定価七二、一〇〇円

# 樺太廳報

全7巻 樺太廳文書課編 荒澤勝太郎解題  
 樺太廳の施政並に法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第一号(昭和12年5月) 第二十号(昭和13年12月)の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。

A5判/総四、四二〇頁/揃定価九九、九一〇円

